

日本性科学会 ニュース

第38巻第4号

令和元年(2019年)12月

発行人:大川 玲子 印刷所:株式会社絵文社

2020年研修会・学術集会・研究会予告

第13回 日本性科学会近畿地区研修会

テーマ:性にかかる支援

今回の近畿地区研修会のテーマは、「性にかかる支援」と致しました。人工妊娠中絶や乳がんなどの性に「関連した」出来事への支援と、性に起因した葛藤や困りごとに「かかる」という支援との両方の意味を「性にかかる支援」というテーマに包含しています。

また、座学だけではなく「講演すること」や「討論の場」も研修の一環と考え、プログラムの午前中には若手やコメディカルの方を中心のご発表頂くことと致しました。その後、各分野の最前線で活躍されている先生方にご登壇頂き、さらにセックスセラピー、性科学会や学会に関する歴史的経緯について大川玲子理事長からご教授頂く予定です。

本研修会が性に关心を持つ近畿地区の医療従事者、研究者、教員、学生などが集い学ぶ場となり、今後も性科学が発展し続けることを心から願っております。

期日:2020年2月2日(日) 10:00~17:00

会場:梅田ガクトホール URL: <https://www.kgn.or.jp/map.html>

〒530-0001 大阪市北区梅田2-6-20 パシフィックマークス西梅田14F

連絡先:TEL:06-6346-0569 FAX:06-6346-5095 E-mail:info@kgn.or.jp

予定単位:日本性科学会10単位

参加費:医師・その他:会員5,000円/非会員10,000円

コメディカル・研究者・教員:会員1,000円/非会員3,000円

学生:1,000円

プログラム

10:00	開会式 主催:日本性科学会 後援:NPO法人関西GICネットワーク	理事長 大川 玲子 理事長 康 純
司会(大阪医科大学 康 純)	10:10~10:50 社会福祉士の地域における取り組み ~セクシュアル・マイノリティに関するつながりづくりと今後~	きょうとイロ 真鼻 弘美 関西医科大学 山田妃沙子
座長(新淡路病院 堀 貴晴)	10:55~11:35 救急医療と性	さくま診療所 佐久間 航
11:40~12:40 中絶から見えてくること 街中の婦人科診療所 性の最前線より	さくま診療所 佐久間 航	聖隸浜松病院 今井 伸
12:40~13:00 討論		ナグモクリニック大阪 坪田 優
13:00~14:00 休憩(単位授与/プログラム委員会)		
司会(さくま診療所 佐久間 航)	14:00~14:40 誰でもわかる性格分析とセックスセラピーへの応用	聖隸浜松病院 今井 伸
座長(関西医科大学 織田 裕行)	14:45~15:25 乳癌治療と性生活への影響	ナグモクリニック大阪 坪田 優
15:30~16:30 JASCTからJSSS、そしてWAS ~日本性科学会の歩み~	国立病院機構千葉医療センター	大川 玲子
16:30~16:50 質疑応答		
16:50~17:00 閉会式	日本性科学会 幹事/NPO法人関西GICネットワーク	副理事長 織田 裕行

第49回セックス・カウンセリング研修会

期日:2020年5月31日(日) 会場:お茶の水女子大学本館3階306教室(東京)

*昼休みに2020年度日本性科学会総会を開催致します。

メインテーマ:周産期のセクシュアリティ・セックスセラピー

第40回日本性科学会学術集会

期日:2020年10月25日(日) 会場:御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京)
学会長:針間 克己(はりまメンタルクリニック院長)

症例研究会

期日:2020年1月、3月 18:30~20:30

会場:日本性科学会事務局 東京都文京区本郷3-2-3-4F TEL/FAX 03-3868-3853

*参加希望の方は事務局にお問い合わせください。

Vol. 38

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

No.

4

〔症例研究会から〕

日本性科学会セクシュアリティ研究会
堀口貞夫、堀口雅子、荒木乳根子

令和元年5月1日に出版した『中高年のための性生活の知恵』（日本性科学会セクシュアリティ研究会：荒木乳根子・今井伸・大川玲子・金子和子・堀口貞夫・堀口雅子著、アチューブメント出版）について紹介する機会をいただいた。

本著については、第20回性科学セミナーの講演で、JSSMの佐藤嘉一先生（三樹会病院）が「一家に一冊備えるべき本」として取り上げて下さった。また、“人間と性”教育研究協議会の村瀬幸治先生は女性に向けたマスターベーションの勧めなど女性が自らの性の主体者として生き直すことを示唆する項目に本著刊行の深い意味を感じたと書いて下さっている。いずれも大変嬉しい評価だった。

セクシュアリティ研究会では、2000年、2003年、2012年と40～70代の中高年男女を対象に性に関するアンケート調査を実施。調査結果はそれぞれ『カラダと気持ち—ミドルシニア版』、『カラダと気持ち—シングル版』、『セックスレス時代の中高年性白書』という本にまとめた。

2012年調査を実施して驚いたのは夫婦間のセックスレス化が顕著に進んでいることだった。それは必ずしも男女双方が望んでのことではない。このままでいいのか、そんな思いが生じた。「関係性がベースにあって性生活がある」との思いから、性意識や関係性についても多面的に聞いてきたが、「夫の求めに従うのが妻の役割」といったジェンダーの縛りは薄れ、働く女性が増え、男女がより対等に向き合えるようになってきていた。それはとても望ましい。けれど、その関係性・コミュニケーションを深め、互いにとって望ましい性生活を築くことができないまま、セックスレスに流れている。それ違いに悩む男女は多いのが現状だが、お互いの心と体についてもっと知ることで解消できるそれ違いも多いはず。中高年の夫婦やカップルが読んで、本当に役立つ本を作りたい。そんな思いから、研究会のメンバーが豊かな性生活をもつための知恵を出し合ったのがこの本である。

本著は第1章「心理学からよみとく中高年の性」、第2章「生理学からよみとく中高年の性」、第3章「性と心を解決する15の心得」、第4章「性のお悩み 実例とアドバイス」から成る。内容は非常に具体的で、読者にとって役立つと確信する知識と知恵が詰まっている。症例検討会ではセックスレスの背景にコミュニケーション力の脆弱化があるのでは、という危惧も話題になったが、コミュニケーション力を高めるすべも詳細に記載されている。

中高年になったカップルは何も若い頃と同じようなセックスを求める必要はない。でも長寿になりこれから的人生は長い。パートナー間で肌をふれあえる関係性があるかどうか、それによって得られる安らぎも日々の豊かさも違ってくるはず…。

堀口談：人間だからこそその可能性に満ちた、素晴らしいセックスをこれから二人で見つけることが、人生100年時代の最大の楽しみになれば——そのために本著が役に立ったら、それ以上に嬉しいことはありません。

第39回日本性科学会学術集会を開催して

第39回日本性科学会学術集会会長
医療法人玉昌会高田病院泌尿器科科長

内田洋介

昨年2月に第39回学術集会開催の打診があり、前後して異動の話が出たため、ためらいましたが、新任先のご理解、バックアップのお約束も頂いたため承ることに致しました。

決定後は打倒仮面ライダーを策するショッカーの大幹部の如く、過去15年間のプログラムを分析し、また今まで印象に残った学会を思い返しながら企画を練りました。よく学会内容は覚えてないが、あのときの懇親会は牛の丸焼きが出たので驚いたとか、有名人が来たので印象に残っているとかいう話を聞きますが、鹿児島大会は学会プログラムも懇親会も参加した皆様の心に残るものを目指そうと考えました。

会場の鹿児島市医師会館のある加治屋町は西郷隆盛、大久保利通を始めとする明治維新の立役者達が育った場所です。昨年の名古屋大会のテーマが「次世代につなぐ性科学」でしたので、明治維新ゆかりの地で新しい時代の性科学を考えるということで今回のテーマとなりました。

10月5日午後、第20回日本性科学連合性科学セミナーが開催されました。テーマは「性の健康 一平成から令和へー」で片瀬一男先生（日本性教育協会）、齋藤益子先生（日本性感染症学会）、佐藤嘉一先生（日本性機能学会）、金子和子先生（日本性科学会）、そして今井伸先生（日本思春期学会）がそれぞれの学会の視点から時代の推移による変化をお話しくださいました。

詳細は日本性教育協会発行の現代性教育研究ジャーナル No.104 (https://www.jase.faje.or.jp/jigyo/journal/seikyoiku_journal_201911.pdf) をご参照下さい。

5日の夜の懇親会には多数の皆様にご参加頂きました。この日のためにプレミアム焼酎の手配に苦労していましたが、無事入手でき皆様に楽しんで頂くことが出来ました。また、新しい出会いもあり繋がりが広がったことが何よりうれしいことでした。

そして、初の試み夜の市民公開講座「TENGA ナイトスペシャル」。福元メンズクリニックの福元和彦先生が2年間毎月性に関するテーマで市民へのレクチャーを行っている「TENGA ナイト」のスペシャル版ということで、第1部は福元先生、今井伸先生、早乙女智子先生にお話し頂きました。第2部は桂ほんぽ娘さんのピンク落語で大いに笑って頂き、そして第3部では加藤鷹さん、小室友里さんを加えてのトークセッションで会場の盛り上がりは最高に達しました。加藤さんはイベント終了後も遅くまでサインや写真撮影のため参加された皆様に対応して下さいました。

そして2日目。

初っ端から白熱したシンポジウム1「HPVワクチンのこれからを考える」。

後日SNS等で参加されていない方からも「演者の人

選に悪意を感じる。」「学会のガバナンスを問う。」などの激しいお言葉でご批判を受けましたが、そもそも賛成・反対という対立軸で演者を選んだわけではありません。

鹿児島大学の脳神経内科はHPVワクチン接種後の神経障害をおそらく全国で一番診ており、かつ血液浄化を中心とした治療法が成果を挙げていると、私の大学の同級生である高嶋博教授や血液浄化療法部（泌尿器科が運営）の速見准教授から聞いておりましたので、その実態と治療成績についてHPVワクチン接種率の向上にご尽力されている先生方にも知って頂きたいと考えました。

また、接種勧奨の再開が中々厳しい中、正確な情報を子ども達や保護者に伝えることが非常に大切と考え、性教育を熱心になさっている高橋幸子先生にご講演をお願いしました。そして、高橋先生はご自分の経験を踏まえながら、心に響く素晴らしいお話ををして下さいました。

私は若い世代の女性が子宮頸癌でも神経障害でも苦しまないような状況になることを切に願っております。今しばらくして7割接種した世代とその前後での子宮頸癌罹患率の差が出てくると潮目が変わらぬのではないかと思っています。将来接種率が上昇し副反応が出た場合、それをきちんとアセスメントし、万が一脳炎が疑われる場合は、経験豊富で成績のよい施設に早めに紹介することが接種率を維持する意味でも大事なのではないかと思いえた企画でした。

続くシンポジウム2では三橋順子先生に日本におけるセクシャルマイノリティの歴史についてお話し頂き、後半は薩摩の兵児二才にも触れて頂きました。このために前日に出水市まで取材に行かれたようです。地元の東川隆太郎さんからは薩摩の郷中教育のお話しがあり、昨年の大河ドラマの裏話もして頂きました。

昼食をはさんでシンポジウム3では赤谷まりえさんが性風俗利用者の匿名性、ヘテロ男性性欲の自然化と単純化について問題提起され、要友紀子さんはセックスワークの支援活動はその団体の立ち位置で内容がかなり変わってくるとお話になりました。また、畠野とまとさんはトランスジェンダーのセックスワークの実態について話されました。

古川潤哉さんは特別講演で「生と死」について非常にわかりやすく且つ深くお話し下さいました。

最後のユースセッションは柳田優依さん、イロタカさん、岡野めぐみさんにそれぞれの活動についてお話し頂いた後、未来への展望についてディスカッションして頂きました。

手作りの学会で、会長は特別講演も座長もせず、日々走り回っておりましたが、時間のことばかり考えすぎて、もう少し会長として意見を述べたり、その場をまとめるべきだったと反省しております。

多数のご参加誠にありがとうございました。

2020・2021年 日本性科学会理事選挙に関する告示

理事選挙管理規程に従い、2020・2021年度の理事の立候補を受け付けます。

立候補希望者は事務局にお申し出下さい。必要書類を郵送します。

尚、ブロックについては、第4回総会の承認に基づき、全国1ブロックとします。

1. 定 員 10名以内
2. 立候補資格 2019年12月末日現在、入会後満3年を経過し、会員5名によって推薦された正会員
3. 立候補締切 2020年2月15日
4. 申し出先 〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 日本性科学会選挙管理委員会
TEL・FAX 03-3868-3853

2019年12月20日

日本性科学会選挙管理委員会 委員 石丸径一郎 花村 温子
今井 伸 田中 奈美

選挙日程

理事当選者発表 3月（候補者が定員を上回る場合は会員の投票による）
新理事の総会承認 5月（予定）

以 上

2019年度資格認定結果

資格認定委員会委員長 阿 部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2019年度の新規資格認定並びに資格更新の手続きが行われました。厳正なる資格審査の結果、以下のように新規セックス・カウンセラー1名、セックス・セラピスト3名、更新セックス・カウンセラー7名、セックス・セラピスト12名が認定されました。

新規認定

セックス・カウンセラー 奥 村 敬 子
セックス・セラピスト なし

更新認定

セックス・カウンセラー 花 村 温 子
セックス・セラピスト 永 井 敦 岩 佐 厚 石 丸 径 一 郎 花 村 温 子
丹 羽 咲 江 内 田 洋 介 菅 沼 信 彦 (登録順)

来年度も新規資格認定、並びに更新認定（2015年資格取得者が該当）の手続きが行われます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2019 vol.37 no.1掲載の資格認定規定並びに資格更新規定を御熟読の上、御準備をお願い致します。特に、学術集会・研集会などに御出席の際の受講証・出席証は、必ず保管してください。申請の詳細は、2020年6月発行のニュースに掲載されます。

書評

『性別違和・性別不合へ』 針間克己 (著) 緑風出版 (2019年)



当学会理事でもある著者は、1990年代より性同一性障害／トランスジェンダーの臨床に長く携わっている精神科医の1人である。またGID（性同一性障害）学会認定医制度ができてから、2017年に初めて認定された9名の医師のうちの1人である。

ここ数年のLGBTブームの中、性同一性障害やトランスジェンダーについて、「心の性別と身体の性別の不一致」などごく簡単で表面的な理解は日本においても広まってきている。しかし詳細まで正確に理解しようとすると簡単には答えの出ない問題が多く存在する。性同一性障害とトランスジェンダーはどう違うのか、性同一性障害は病気なのか／精神疾患なのかどうか、美容目的の

お茶の水女子大学生活科学部心理学科

石丸径一郎

医療と同様に自費とすべきか／健康を脅かす疾患として健康保険を適用すべきか、などである。しかも近年、性同一性障害から、性別違和（DSM-5）、性別不合（ICD-11）へと疾患名と診断基準の変更があり、この両者の定義も異なっており、事態は複雑を極めている。本書はそのような複雑な事情を、バランスの取れた立場から簡明に解きほぐし、具体的なエピソード的記述を多用してわかりやすく解説している。

ジェンダーやセクシュアリティに関心のある人にはもちろんお勧めだが、そのような問題設定を大きく越えて、現代社会における精神疾患と社会・法制度との関係とはどのようなものなのか、その中でメンタルケア専門職の役割はどうあるべきかといった大きな問題についても考えさせられる1冊である。